

きずな

いのち。つながるマガジン Vol.7
2017.1



明日へ向かう
今日の歩み

戦争は 気づいた時には 始まっている

して戦争が起き、多くの犠牲が出て止めることができなかったのか——

「戦争は気づいた時には始まっている」とは、二〇一五年十二月に亡くなった作家・野坂昭如さんの言葉だ。自らの戦争体験を原点到、焼け跡闇市派と称して戦後の日本社会を見続けてきた彼のこの表現からは、戦争と平和との境界線は曖昧で、気づいたときには巻き込まれていて手遅れだとの警告が読み取れる。先の戦争も、多くの国民は知らない間に全体主義の大きな波にさらわれ、抗うことができずに押し進められてきてしまったのではないだろうか。

昨今、にわかに緊迫化する東アジア情勢を背景に、集団的自衛権の行使を含む安保法制が整備され、憲法の改定まで現実味を帯びつつある。政府の掲げる「積極的平和主義」とは、国際協調主義に基づいて、地域及び国際社会の平和と安定に積極的に寄与していくことのようにだ。（外務省発表による）何とも聞こえはいいが、これはあくまで武力の存在を前提

としている。協調のためとして、互いにミサイルを向けて牽制しあう状態を平和といえるだろうか。欺瞞に満ちたこの政策を見過ごしていると、いずれは逆コースをたどり、取り返しつかない事態に陥ってしまう可能性は少なからずある。

平和とはもちろん崩れやすいものであるとの認識が私たちには必要だろう。戦後70年の平和は、ただ当たり前のようにならなくて、平穏な暮らしを希求する人々の強い意志によって堅持されてきたものなのだ。「積極的平和主義」という甘言をまともして平和を脅かす潮流はひっそりと私たちに近づいてきているのかもしれない。その流れを見極めて、飲み込まれないように注意せよと野坂さんはメッセージを残してくれたように思えてならない。

親鸞聖人は「世のなか安穏なれ 仏法ひろまれ」と願われた。仏法を相続するために、安穏なる世のなかを次世代に残していくことが私たちにいま求められている。

（行事広報部会 寺尾拓路）

戦争

太平洋戦争が終結して七十年を経た二〇一五年、私たちは平和を願う思いを募らせた。もっとも、この思いは戦後七十年の節目を迎えたからといって抱いた特別なものではないだろう。争いごとなく平穏のうちに毎日を通すことは人間の根源的な願望のほずで、現代を生きる私たちがだけでなく、戦時を生きた人々も同様であったに違いない。では、どう

一過ちを繰り返さないために、次世代に伝える歴史一

勝山義三さんに聞く 満蒙開拓団とシベリア抑留



勝山義三さん
（河東組元徳寺門徒）

1945年（昭和20年）8月15日、日本は敗戦した。その敗戦前後、24万人を超える犠牲者を出した地域がある。それが満州だ。当時、150万もの日本人が満州にいて、大勢が犠牲になった事実はあまり知られていない。戦時中に満州へ渡り、戦後にはシベリア抑留を経験された須坂市の勝山義三さんにその実態を聞いた。

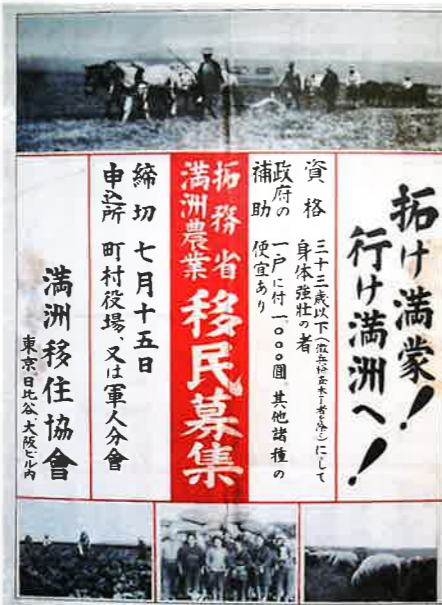
満蒙開拓団とは…昭和恐慌を背景に、満州事変以降、国策として満州（現在の中国東北部）や内モンゴル地域に送られた農業移民団。その数は27万人ともいわれる。とりわけ長野県は、全国で最も多くの移民を送り込んでいる。

—勝山さんはどういう経緯で満州へ渡られたのですか

「父の兄が日滝村（須坂市）の役場にて、兵事係で開拓団・義勇軍の担当をしていたので、昭和16年に長野県統一の開拓団が編成されたとき、伯父に誘われて父と母と妹2人は満州へ行った。1世帯当たり20町歩をくれると言われてね。自分は当時、商業学校の3年生で学校を辞めたくなかった。それで満州へ行くことに反対して、母の実家から学校に通い続け、18年に卒業した後、満州拓殖公社に就職して満州へ渡ることになりました」

—満州に移られてからはどうでしたか

「公社に勤めて1年半が経った20年の2月、兵役検査を受けて甲種合格をして、7月には関東軍に入隊することになった。満州でも徴兵はあったんですよ。あまり情報は入ってこなかったけど、戦局は悪くなっていたのだろうね。そして、8月9日にソ連軍が6か所から満州へ入ってきた。そのまま敗戦を迎え、我々は武装解除をさせられて、ソ連軍に捕らえられた。開拓団の中には、ソ連軍や満州に住む中国人に追われて、子どもを殺したり置き去りにして逃げた人もいたそうですよ。我々も捕らえられる前、上等兵から自決せよと命令を受けた。でも、



中隊長が生きて日本のためになれと言って思いとどまったんです」

—シベリアでの捕虜の生活とはどんなものでしたか

「最初はブレヤというところの石切り場に配属されてね。近くを走るシベリア鉄道の側線まで石を運ぶ作業をさせられた。住まいは10人ひと部屋の収容所。食事は粗末で、栄養失調になった人もいたね。ただ、いちばん困ったのはしらみ。食べる物が少ないのに血を吸われて、生きた心地がしなかったですよ。ブレヤに半年いた後はライチハに移った。露天掘りの炭鉱があって、採掘の雑用をした。脚気にかかって、入院もしました。捕虜にこんな仕事をさせるのはおかしいと思ったけれど、戦争に負けてしまったんだからどうにもならない。いつかは日本に帰れるだろうと思うようにして仕事をしました」

—当時を振り返って、いまはどんな思いですか

「昭和20年8月9日からソ連と戦争になって、15日に敗戦。戦争7日、捕虜4年を経験して、24年の7月に須坂へ帰ってきた。駅まで迎えに来てくれた学校の先生が泣いて喜んでくれた姿を思い出すと、戦争なんて二度としてはいけないと強く思っています」

座談会

あれから5年、
これまでの歩み
これからの歩み

東日本大震災
長野教区災害復興ボランティア

- 座長 金井 達也 (行事広報部長、山地組・明専寺門徒)
- 参加者 海野 栄 (松本組・西生寺坊守)
久遠 峯志 (山地組・阿弥陀寺住職)
柳川 大喜 (松本組・善福寺衆徒)
山崎 慶雅 (河西組・西光寺衆徒)
和田 睦子 (松本組・松本別院門徒)



金井 本日はお集まりいただきありがとうございます。ありがとうございます。

長野教区は、2011年5月より「実践目標」を十年間の長期的支援活動と掲げ、これまで団体で二十三回、延四〇四名(2016年10月現在)の方々と共に活動してまいりました。

きずなでは、毎号活動報告やインタビューを掲載してまいりました。十年目標の半分となる今年、度々ご参加されています皆さんにこれまでの5年とこれからの5年についてお話しを伺えればと思います。

和田 私は震災の年の6月初めてでした。その時はまだまだ炊き出しという支援でなく、石



巻の称法寺の片付けをさせていただき、境内の木に車が引っかかっていたり、本堂は柱だけが残って他は全て流されてしまったというような状況を今でも覚えています。

その後、炊き出しの支援にも何回もいかせていただいておりますが、はじめの方はこの仮設住宅におじゃましても長い行列ができてたたくさんのお蕎麦を提供していただきました。今年もおじゃまして変化として感じるの、人数が当初より少なくなったということですね。新たな生活を始める人が増えているともいえますね。

海野 私は、このボランティアに参加するのは自分のためなんです。震災の年の1月に息子を亡くして、きっと息子だったら率先し

て参加するだろうなという思いがあつて参加しました。気持ちとして自分が救われたくて、何か求めたくて参加しました。お一人お一人の話を聞いて悲しみを受け止めていくことしかできないけれども、回数を重ねて行く毎に明るく前向きな声や顔に接して私もどこか救われたなという思いもあります。

また、今年教区として初めて福島県の仮設住宅に伺いました。宮城とは違う、原発事故の影響による帰宅困難の方の現状を聞かせていただいて、課題の深さを知ることができました。今後、私たちもこのことを課題として考える必要がありますね。

山崎 私が初め行かせていただいたのは、長野教区とは別で個人で行かせていただきました。最初はモノがとにかくないという状況で物資の運搬の活動をしていました。震災後1・2年は外面的な変化が見えやすかったですね。たくさ

んのボランティアの方々が入って流入物の片付けをして、国や行政もいち早く生活を取り戻そうと盛んでした。その後仮設住宅が整った3年目4年目というのは、炊き出しの際お話を伺うと内面的な部分で一人お一人にいい意味でも悪い意味でも変化があるなど気付かせていただきました。5年目の今年、仮設住宅に活気がなくなっている現実を目の当たりにしました。子供が1年前に比べ明らかに少なかったですね。若い世代の方々は収入を確保できて仮設から新たな生活に移ることができるようですが、高齢の方々は今からどうなるのだろうかという現実を見てその時のショックは本当に大きかったです。



柳川 ぼくが初めて参加した時は、蕎麦の炊き出しの活動がメインになってからです。一番最初に行かせていただいた仮設住宅はもうありません。今後も仮設住宅はほとんど減っていくと聞いています。

先ほど山崎さんのお話にもありましたが、ぼくも仮設住宅で暮らすおばあちゃんから「仮設を離れてまた一から別の暮らしをするのは嫌なんだ」と話を聞かせていただいたことがあります。そういった方はこれから増えていくように思うんです。また時間の経過とともに震災の記憶が人々から忘れられていくというのも怖いことだと最近感じています。長野教区の息の長い活動として、今後も継続的に関わらせていただいて、情報をお伝えできればと思います。

流が終わって最後にその自治会長さんのリクエストを演奏させて頂いたんですが、自治会長さんがずっと下を向いて動かないんです、涙を流してました。その涙の「思い」というのは全てを汲んであげることができないけれど、きっと様々な「思い」でしょう。いままでの悲しみやつらかったこと、これからの不安など、その姿は今でも思い出します。今後、仮設住宅の方ももちろん、復興公営住宅で新たな生活を送る方とも関わらせていただきたいと思います。



柳川 ぼくが初めて参加した時は、蕎麦の炊き出しの活動がメインになってからです。一番最初に行かせていただいた仮設住宅はもうありません。今後も仮設住宅はほとんど減っていくと聞いています。

3 回目には復興公営住宅に行かせて頂いた時でした。当時は入居が始まったばかりで、様々な思いを持った人々がなかなか外に出れない、近所付き合いも途上であるなか、我々がおじゃましてお蕎麦やサックス演奏をやるからというところでそこで交流が見え大変嬉しく、やってみようかと思いましたが、またどこかに行ってもそうですが、それぞれの自治会長さんは大変ご苦労されています。これも復興公営住宅のことです、皆さんの交



今年の4月16日に最大震度7の熊本地震が発生しました。情報の発信はそのことに集中し、我々の関心も一気にそこに向きます。当たり前の現象なのかもしれないですが、このことで東日本大震災の当時の記憶が風化してしまうことは大変恐ろしいことだと考えます。津波の恐怖、原発事故など決して風化してはならない記憶があるはずなんです。

「私はわすれない」

その思いで続けた 長野教区災害復興ボランティア 5年間の記録

東日本大震災から5年が過ぎた。インフラや災害公営住宅の整備が急ピッチで進められているものの、いまだに仮設住宅で生活をされている人など避難者が13万を超えているのが被災地の現状だ。

長野教区では、震災直後から継続的に現地での復興支援活動を行い、復興の進捗状況を目の当たりにするとともに、被災者の声を直に聴かせてもらってきた。ここでは今までの記録をまとめ、被災地に平穏な暮らしが戻るまで続けていくべき今後の支援活動の礎としたい。

*信濃むつみ高等学校からの参加者数も付記します。

2011年

- 3月 14日(月)～17日(木) / 2名参加**
東北教区ボランティアセンター立ち上げ
- 5月 9日(月)～12日(木) / 4名参加**
宮城県亘理町ピニールハウス内流入物撤去作業、石巻市称法寺流入物撤去作業
- 6月 8日(水)～11日(土) / 10名参加**
石巻市称法寺流入物撤去作業 / 気仙沼避難所物資搬送 / 石巻市ボランティアセンターでの活動



7月 11日(月)～14日(木) / 11名参加 (むつみ高校4名)
石巻市称法寺流入物撤去作業 / 称法寺仏具・納骨堂整理 / 物資支援

8月 17日(水)～19日(金) (2泊3日) / 8名参加
宮城県名取市仮設住宅・美田園地区第二・三仮設住宅にてそば・かき氷・野菜等配布 / 仮設住宅においてキッズサロンの開催

9月 11日(日)～14日(金) / 3名参加

宮城組称法寺墓地流入物清掃活動 / 名取市仮設住宅2ヶ所での支援活動 / 愛島東部団地、箱塚桜団地にてりんご・綿あめ提供

10月 11日(火)～14日(金) / 6名参加

宮城県名取市仮設住宅4ヶ所での支援活動 / 宮城組称法寺墓地流入物清掃活動 / 山元町いちご農園復興作業

11月 27日(日)～30日(水) / 8名参加 (むつみ高校4名)

宮城県名取市仮設住宅、岩沼市仮設住宅へ支援活動 / 宮城組称法寺墓地流入物清掃活動 / 専念寺にてりんご提供

12月 19日(月)～22日(木) / 13名参加 (むつみ高校4名)

宮城県名取市仮設住宅5ヶ所にてそば炊き出し、りんご・綿あめの提供

8月 6日(火)～9日(金) / 9名参加

名取市美田園第二仮設住宅、宮戸小学校仮設住宅、東松島市月浜地区仮設住宅、室浜地区仮設住宅、上北谷地区仮設住宅にてそば配布などふれあい交流会

11月 17日(日)～20日(木) / 14名参加 (むつみ高校5名)

名取市雇用促進住宅愛島宿舎、川内借上げ公営住宅集会所、箱塚桜仮設住宅集会所、美田園サロン、箱塚屋敷仮設住宅にてそば、りんご配布などふれあい交流会

2014年

1月 26日(日)～29日(水) / 14名参加 (むつみ高校7名)

東松島市小野市民センター、根古地区センター仮設住宅集会所、ひびき工業団地仮設住宅集会所、名取市上余田公会堂にてそば、りんご配布などふれあい交流会

3月 9日(日)～12日(水) / 10名参加

閉上さいかい市場、川内借上げ公営住宅、宮城野区岡田西町公園仮設住宅、荒浜民間借上げ住宅の会・若松会にてそば、りんご配布などふれあい交流会 / 旧閉上中学校追悼法要参拝

5月 25日(日)～28日(水) / 15名参加 (むつみ高校7名)

名取市雇用促進住宅愛島宿舎、美田園第二仮設住宅、岩沼市里の杜西応急仮設住宅、民間借上げ住宅集会所・上余田公会堂、仙台市北六番丁復興公営住宅にてそば配布などふれあい交流会

7月 27日(日)～30日(水) / 13名参加 (むつみ高校3名)

仙台市復興公営住宅、由子西市営住宅、卸町5丁目公園仮設住宅、川内借上げ公営住宅、名取市民間借上げ住宅・館腰サロン、仙台市岡田西町公園仮設住宅にてそば配布などふれあい交流会

8月 5日(火)～6日(水) / 4名参加

本願寺仙台別院地区交流会・納涼まつり参加 / ゆりあげ港朝市メイプル館にて研修 / 雇用促進住宅愛島宿舎にて交流会

2012年

2月 5日(日)～8日(水) / 14名参加 (むつみ高校6名)
宮城県名取市仮設住宅5ヶ所にてそば炊き出し、りんご・綿あめの提供

3月 3日(土)～5日(月) / 13名参加

石巻市大街道小学校復興祭にてそば、りんご、りんごジュース・綿あめ炊き出し

5月 11日(金)～14日(月) / 15名参加 (むつみ高校6名)
みなし仮設住宅対象のマルチパート洋服頒布会 / そば・綿あめ・子ども向けイベント

7月 12日(木)～15日(日) / 16名参加 (むつみ高校6名)
名取市仮設住宅、雇用促進住宅愛島宿舎、美田園ファーム、小塚原南集会場復興祭にてそば・かき氷配布、子ども向けイベント

9月 12日(水)～15日(土) / 8名参加 (むつみ高校2名)

宮城野区扇町四丁目仮設住宅、若林区卸町5丁目公園仮設住宅、名取市仮設住宅・美田園第二、名取市集会所・杉ヶ袋南公会堂、名取市雇用促進住宅愛島宿舎にてそば・かき氷配布などふれあい交流会



11月 25日(日)～28日(水) / 13名参加 (むつみ高校2名)

若松会・民間借上げ住宅の会、若林区卸町5丁目公園仮設住宅、宮城野区扇町四丁目仮設住宅、名取市東中田市民センターにてそば、りんご配布などふれあい交流会

2013年

1月 27日(日)～31日(水) / 12名参加 (むつみ高校2名)

港南西公園仮設住宅、名取市市民活動支援センター、名取市仮設住宅・愛島宿舎、小野駅前風の子ども公園仮設住宅、小野駅前ふれ愛北公園仮設住宅にてそば、りんご配布などふれあい交流会

3・4月 31日(日)～3日(水) / 10名参加

閉上さいかい市場、東松島市雇用促進住宅失本宿舎、若松会・民間借上げ住宅の会、川内公務員住宅にてそば、りんご配布などふれあい交流会

6月 9日(日)～12日(水) / 23名参加 (むつみ高校15名)

名取市美田園第三仮設住宅、名取市市民活動支援センター、宮城野区扇町4丁目公園仮設住宅、名取市仮設住宅雇用促進住宅愛島宿舎、岩沼市里の杜西・東・南・応急仮設住宅にてそば配布などふれあい交流会



10月 5日(日)～8日(水) / 8名参加

民間借上げ住宅の会・若松会、名取市小塚原北集会所、仙台市北六番丁復興公営住宅、名取市美田園わかば幼稚園、箱塚屋敷仮設住宅にてそば、りんご配布などふれあい交流会 (台風のため活動を休止した場所あり) / 石巻市称法寺墓地清掃・環境整備活動

12月 14日(日)～17日(水) / 15名参加 (むつみ高校6名)

箱塚桜仮設住宅、東松島市小野中央三公園仮設住宅、根古地区センター、仙台市柳生地区サロン、名取市雇用促進住宅愛島宿舎にてそば、りんご配布などふれあい交流会

2015年

2月 22日(日)～25日(水) / 17名参加 (むつみ高校8名)

植松入生、美田園第一、愛島東部、小塚原北、北六番丁にてそば、りんご配布などふれあい交流会

5月 17日(日)～20日(水) / 15名参加 (むつみ高校6名)

美田園第二仮設住宅集会所、名取市上余田公会堂、仙台市荒井東復興公営住宅、若松会、川内公務員住宅集会所にてそば配布などふれあい交流会



7月 26日(日)～29日(水) / 16名参加(むつみ高校7名)
名取市雇用促進住宅愛島宿舎、仙台別院教化センター、福島交流会、仙台市若林西復興公営住宅、名取市箱塚屋敷仮設住宅、箱塚桜仮設住宅にてそば配布などふれあい交流会

8月 5日(水)～6日(木) / 5名参加
仙台別院地域交流会、納涼まつり参加 / 名取市雇用促進住宅愛島宿舎、箱塚桜仮設住宅、若林西復興公営住宅、閑上地区訪問

10月 4日(日)～7日(水) / 13名参加(むつみ高校7名)
仙台市田子西復興公営住宅2期棟、東松島市小野中央三公園仮設住宅、根古地区センター小野駅前仮設住宅、上北谷仮設住宅にてそば、りんご配布などふれあい交流会

12月 13日(日)～16日(水) / 14名参加(むつみ高校7名)
仙台市復興公営住宅、通町市営住宅、閉上さいかい市場、仙台市柳生地区サロン、名取市美田園第二仮設住宅にてそば、りんご配布などふれあい交流会 / 閑上メイプル館にて研修交流会

2016年

2月 14日(日)～17日(水) / 9名参加

仙台市荒浜地区集会場、若松会、仙台別院教化センター、支倉町サロン復興公営住宅・燕沢市営住宅、名取市愛島東部仮設住宅、雇用促進住宅愛島宿舎にてそば、りんご配布などふれあい交流会

5月 22日(日)～24日(火) / 14名参加(むつみ高校7名)

名取市植松人生仮設住宅、仙台市角五郎公営住宅、名取市美田園第一仮設住宅、南相馬市寺内塚台第一仮設住宅にてそば配布などふれあい交流会 / 浄土真宗本願寺派・福島県復興支援宗務事務所訪問

7月 24日(日)～27日(水) / 19名参加(むつみ高校10名)

仙台市若林西市営住宅集会場、名取市上余田公会堂、仙台市燕沢市営住宅、東松島市ひびき工業団地仮設住宅集会所、室濱復興公営住宅集会所にてそば配布などふれあい交流会



編集後記

長野教区実践運動機関誌「きずな」第7号をお届けいたします。今号は、「非戦平和」と「災害復興ボランティア」を主題としました。いずれも、かねてより長野教区が重要な課題と位置付けて取り組んできたテーマです。御同朋の社会をめざす上でも、この課題を避けては通れないでしょう。本誌が、ともに念仏のみ教えに依拠して生きる皆さまと問題意識を共有できる契機になれば幸いです。

行事広報部長 金井達也

石の鐘の物語 いね子の伝言

戦時中の供出によって梵鐘が外され、代わりに吊るされた石の鐘は、女性僧侶によって、非戦の証しとして守られてきた。その少女時代からの人生を描き、平和への熱い想いを伝える。

著者 和田登
出版社 かもがわ出版



長野教区では、今後も災害復興ボランティアを継続していきます。現地ボランティアにご参加いただける方、支援物資を提供していただける方は下記までお問い合わせください。

「御同朋の社会をめざす運動」長野教区委員会 TEL.026-234-1796 (長野教区教務所内)

※この活動は、皆さまにご賛同いただいた「たすけあい募金」をもとに進めてまいりました。引き続きのご協力をよろしく願いたします。